

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：13901

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））

研究期間：2019～2021

課題番号：18KK0336

研究課題名（和文）F.J.ビーバー資料群の共有・保存・利活用にむけたデジタル・アーカイブ構築

研究課題名（英文）Establishing digital archives for the preservation, utilization and sharing of the collections of Friedrich Julius Bieber

研究代表者

吉田 早悠里（Yoshida, Sayuri）

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：20726773

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,500,000円

渡航期間： 14ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、エチオピア南西部カファ地方の民族学的研究の第一人者であるF.J.ビーバーの資料群を学術研究に利用するために、デジタル・アーカイブズを構築することを目的とする。F.J.ビーバー資料群のうち、個人蔵の絵葉書資料、写真資料、およびヒーツィンク区博物館所蔵の民族学的資料のデジタル化を実施し、デジタル画像と資料詳細に関するメタデータを作成した。そして、オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学文化遺産センターのARCHEを活用して、これらの資料群のデジタル・データをインターネット上で、諸外国の研究者が学術研究に利用できるように取り組むとともに、データ共有・保存・利活用を活性化させる素地を整えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

F.J.ビーバー資料群は、エチオピア研究、歴史学、文化人類学、国際関係学など、さまざまな学問分野にて基礎資料としての価値を有する資料群であり、人文科学全体の発展はもちろん、とりわけエチオピアの地方史／国家形成史、アフリカの角地域の歴史解明に大きく貢献するものである。本研究は、複数の場所に保管されているF.J.ビーバー資料群をデジタル・アーカイブズ化し、インターネット上で国際的に共有し、諸外国の研究者が利用可能な状況を整える点で大きな学術的意義を有する。また、歴史的な文字史料が乏しいエチオピアに暮らす人々がインターネット上で自国の歴史や過去の文化を知る機会を創出する点でも社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：The present research aims to establish the digital archives of Friedrich Julius Bieber's collection, who conducted ethnological research in the Kafa region of southwestern Ethiopia, on the Internet, for use in academic research. To this end, the digitization (creation of digital images and metadata for the details of each material) of the F.J. Bieber collections, including picture postcards, photographs, and ethnographic objects, was conducted. The project was undertaken to lay the groundwork for generating digital data from the aforementioned materials that would be available to researchers in other countries for academic research on the Internet through ARCHE (A Resource Centre for the HumanitiEs) of the Austrian Centre for Digital Humanities and Cultural Heritage of the Austrian Academy of Sciences. Furthermore, the project would lay the foundation for the activation of data sharing, preservation, and utilization.

研究分野：文化人類学

キーワード：デジタル人文学 アーカイブズ アフリカ史 エチオピア カファ地方 F.J.ビーバー オーストリア

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、2004年から文化人類学的研究を行い、エチオピア南西部カファ地方の歴史を明らかにしようと試みてきた。カファ地方は、無文字社会であるために文字史料が乏しく、歴史の解明は現地調査に依拠せざるを得ない。しかし、口頭伝承やかつての歴史を知る年長者の多くが既に他界しており、現地調査による歴史解明は限界に直面してきた。こうしたなか、2014年、研究代表者はカファ地方の民族学的研究の第一人者であるフリードリッヒ・ユリウス・ビーバー（以下、F.J.ビーバー）が遺した資料群を発見したが、その詳細は解明されないまま消失の危機にあった。そこで研究代表者は、まずは資料群の整理と内容把握にむけて、(I) F.J.ビーバー資料群の資料整理モデルの構築、(II) F.J.ビーバーの文書資料の整理・目録作成・デジタル化および詳細解明に取り組んできた。2017年度から2020年度に、若手研究(A)「F.J.ビーバー資料群の救出：20世紀初頭エチオピア無文字社会の歴史解明にむけて」(17H04775)(本研究の基課題)のもとでこれらの研究に取り組むなかで、作業の完了した資料データの公開・共有・保存・利活用が新たな課題として浮上した。一次資料として高い価値を有する資料の詳細解明やデジタル化を含むアーカイヴズ研究は、資料データをデジタル・アーカイヴズ化し、オープン・データやオープン・アクセスに基づいて広く国際的に公開、共有、利活用可能な状況を構築することが肝要である。そこで、デジタル人文学に関して実績のあるオーストリア科学アカデミーのデジタル人文学文化遺産センターと協力することで、同センターに蓄積された技術を用いてデジタル・アーカイヴズ化と公開を確実に進めることができると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、学際的に一次資料として価値の高いF.J.ビーバーの資料について、オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学文化遺産センターのARCHE(A Resource Centre for the Humanities, 人文科学のための資源センター)を活用して各資料のデジタル画像と資料詳細に関するメタデータをデータベース化した上で、インターネットで国際的に公開・共有し、諸外国の研究者が学術研究に利用できるようにすることを目的とする。ARCHEとは、オーストリア人文学コミュニティのためのデジタル研究データの安定的で持続的なホスティングの提供と普及を目的とするサービスである。これを用いて、デジタル・データに関する基準や情報セキュリティなどの課題をクリアし、デジタル・アーカイヴズ化(データの準備・管理・長期的保存・利活用・促進など)を確実に進める。そして、F.J.ビーバーの資料群を、諸外国の研究者が利用可能な状態を整える。

3. 研究の方法

本研究は、申請者がオーストリアにて海外の研究協力者とともに以下の資料について研究を遂行するものである。

・対象資料

F.J.ビーバー資料群は、オーストリアのウィーンに位置する国立図書館(Österreichische Nationalbibliothek)が所蔵する文書資料、世界博物館(Weltmuseum Wien)が所蔵する民族誌的資料、ヒーツィンク区博物館(Bezirksmuseum Hietzing)が所蔵する民族誌的資料のほか、F.J.ビーバーの孫の個人蔵資料である絵葉書資料、写真資料、文書資料から構成される。このうち本研究では、基課題である若手研究(A)「F.J.ビーバー資料群の救出：20世紀初頭エチオピア無文字社会の歴史解明にむけて」(17H04775)で資料整理を完了した以下の資料を対象とする。

- (a) 個人蔵資料 : 写真資料、絵葉書資料、文書資料
- (b) ヒーツィンク区博物館蔵資料 : 民族誌的資料

・実施内容

具体的に下記の内容を実施する。

- (1) 対象資料を、写真撮影、スキャンなどの作業を通じてデジタル化する。
- (2) 対象資料のデジタル画像と資料詳細に関するメタデータを作成する。
- (3) ARCHEに対象資料の詳細と画像データ、メタデータを入力・保存し、それらをインターネットで公開、共有し、F.J.ビーバー資料群のデジタル・アーカイヴズを構築する。

4. 研究成果

3年間の研究期間のうち、当初は2019年度と2020年度にオーストリアに渡航し、現地で作業・研究を進める計画であった。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症のために現地での研究・作業が不可能となった。そのため、現地での資料整理作業に遅れが生じ、研究計画の大幅な修正を迫られた。結果として、2019年度と2021年度に現地に渡航し、作業・研究を実施した。

本研究期間中に、

- (A) F.J.ビーバー氏の孫の個人蔵資料(絵葉書資料、写真資料、文書資料)のデジタル化とメタデータの準備、およびデジタル・データの公開

(B) ヒーツィンク区博物館所蔵の民族誌的資料のデジタル化とメタデータの準備に取り組み、具体的に下記の成果を得ることができた。

(A) F.J.ビーバー氏の孫の個人蔵資料

・絵葉書資料

F.J.ビーバー資料群の絵葉書資料については、基課題にて2018年度からデジタル・データの公開にむけた準備に取り組んできた。当初、絵葉書資料は、310点であったが、本研究課題の実施中に新たな資料の発見があったため、最終的に対象となる絵葉書資料の数は731点となった。そして、送付/使用済み絵葉書494点、未使用絵葉書237点について、表・裏の両面のデジタル画像およびメタデータを作成した。使用済み絵葉書494点のうち、142点はオーストリア国立図書館所蔵の資料である。これについては、国立図書館の協力を得て、ARCHEでの公開を特別に許可して頂いた。

絵葉書資料のうち、研究代表者が作成したデジタル画像は、研究代表者とF.J.ビーバーの孫が著作権を保持する。また、オーストリア国立博物館から提供して頂いたデジタル画像については、オーストリア国立図書館が著作権を保持する。また、全ての絵葉書資料の絵および写真について、著作権者を調べ、著作権者が特定できたものについてはそれぞれの著作権者にデジタル画像のインターネット上での公開、ダウンロードおよび使用の可否について許諾申し入れを行った。著作権者が不明なものについては、欧州連合知的財産庁(European Union Intellectual Property Office、EUIPO)に孤児作品として登録した。絵葉書資料は、ARCHEにて「The postcard collections of Friedrich Julius Bieber」という資料名で、デジタル・データを近日中に公開する予定である(<http://hdl.handle.net/21.11115/0000-000D-FA8A-E>)。

・写真資料

F.J.ビーバー資料群のうち、写真資料1,039点について、資料整理、デジタル化、メタデータの作成を行った。写真資料は、(1)印画写真、(2)ガラス乾板、(3)フィルムネガ、(4)ステレオ用ガラス乾板、に分類でき、資料の大部分は印画写真である。全写真資料について、撮影場所や撮影時期、被写体に関する情報などを網羅したリストを作成した後、一点一点をスキャンし、全ての写真資料のデジタル化を完了した。今後、各写真のデジタル画像にファイルエラーがないかを専門のソフトウェアを用いて精査し、資料詳細に関するメタデータを統合した後に、ARCHEへの入力・保管を行い、デジタル・データをインターネット上で公開する予定である。

・文書資料

F.J.ビーバーの孫が個人蔵として自宅にて保管していた文書資料について、2020年度から2021年度にかけて、ご本人の意向に基づいてオーストリア国立図書館への寄贈の手続き・作業に取り組んだ。2021年度には、これらの文書資料をその内容に基づいて分類し、そのうちいくつかの資料はスキャンを行ってデジタル化を実施した。文書資料の整理・デジタル化、さらには個々の文書資料の詳細を網羅したデータの作成については多くの時間がかかることが予想されるが、F.J.ビーバー資料群のデジタル・アーカイヴズ構築の達成に向けて今後も引き続き作業に取り組んでいく。

(B) ヒーツィンク区博物館所蔵の民族誌的資料

ヒーツィンク区博物館には、F.J.ビーバーが1904年、1905年、1909年にエチオピアを訪問したときに、現地で収集した民族誌的資料のほか、F.J.ビーバーのプライベート資料の全328点が所蔵および寄託保管されている。

まず、各資料について、資料名(ドイツ語、英語、現地語)、資料用途、収集場所、収集年、収集者、旧所蔵者、資料の寸法、関連する文献、資料の損傷・修復・欠損等に関する詳細情報を網羅したメタデータを作成した。一部の資料については、使用用途や名称が不明な資料が存在していたため、エチオピアにて民族誌的資料の現地名、用途について調査を実施した。

その後、ヒーツィンク区博物館に保管されているF.J.ビーバー資料群のデジタル化を実施した。写真撮影作業は、研究代表者が資料の管理と撮影統括、研究協力者が写真撮影を担当し、合計328点の資料の撮影を実施した。全資料について、異なるアングル(正面・上面・背面など)の写真撮影を完了した。各資料の画像データと、資料に関するメタデータを統合して、それらのデータをARCHEに入力する作業は、今後、実施予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 吉田早悠里	4. 巻 97
2. 論文標題 20世紀初頭のエチオピア南西部カファ地方の歴史解明にむけて：オーストリアに所在するF.J.ピーバー資料群のデジタル・アーカイヴズ構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉田早悠里、杉本豪、Daniel Schopper、Martina Trognitz、Seta Stuhec
2. 発表標題 ARCHEにおけるF.J.ピーバー絵葉書資料のデジタルデータ公開
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田早悠里
2. 発表標題 F.J.ピーバーの日記に見る20世紀初頭のエチオピア
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	杉本 豪 (Sugimoto Go)	オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学文化遺産センター・データ・アナリスト	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	トログニッツ マルティーナ (Trognitz Martina)	オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学文化遺産センター・研究員	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ショッパー ダニエル (Schopper Daniel)	オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学文化遺産センター・研究員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

オーストリア	オーストリア科学アカデミー・ デジタル人文学センター			
--------	-------------------------------	--	--	--